

# 事後評価結果（平成29年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課

担当課長名：橋本 幸

事業名 釧路中標津道路（一般国道272号） 阿歴内道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道川上郡標茶町東阿歴内 至：北海道川上郡標茶町北片無去	延長	5.4 km

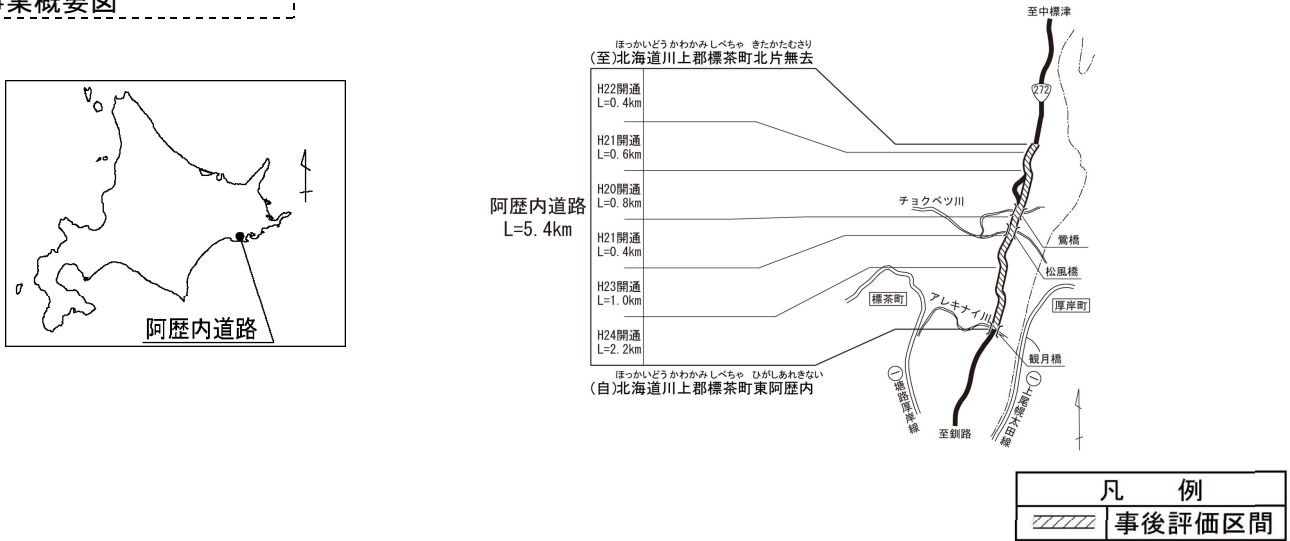
## 事業概要

釧路中標津道路は、釧路市から標津町に至る延長約100kmの地域高規格道路である。阿歴内道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化、物流の効率化等を支援するとともに、地吹雪による視程障害、交通事故の低減を図り、道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした延長5.4kmの事業である。

## 事業の目的・必要性

阿歴内道路は、地吹雪に起因する交通障害の緩和、農水産物の流通利便性の向上、道路交通の安全性向上等を目的とした事業である。

## 事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：H17年度 都市計画決定：一年度	用地着手：H19年度 工事着手：H19年度	供用年：(当初) - / H22年度 (暫定/完成) (実績) - / H24年度	変動：1.4倍
	事業費	計画時 (名目値) - / 32億円 (暫定/完成) (実績値) - / 31億円	実績 (名目値) - / 50億円 (暫定/完成) (実績値) - / 49億円		変動：1.6倍
	交通量	計画時 (現道272号) 3,583 台/日	実績 (現道272号) 3,591 台/日		変動：100%

旅行速度向上：54.4 km/h → 59.1 km/h  
(開通前現道→当該路線) (開通前年次) H17年度 (開通後年次) H28年度  
 交通事故減少：6.9件/億台km → 0件/億台km  
(開通前現道→当該路線) (開通前年次) H17~19年平均値 (開通後年次) H26~27年平均値

費用対効果 分析結果 (当初)	B/C: 2.5	総費用: 27億円 (事業費: 27億円 維持管理費: 0億円)	総便益: 68億円 (走行時間短縮便益: 43億円 走行経費減少便益: 18億円 交通事故減少便益: 6.2億円)	基準年 平成16年
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C: 1.03	総費用: 77億円 (事業費: 66億円 維持管理費: 11億円)	総便益: 80億円 (走行時間短縮便益: 49億円 走行経費減少便益: 20億円 交通事故減少便益: 11億円)	基準年 平成29年
事業遅延によるコスト増	費用増加額: 20.4億円	便益減少額: 8.7億円		

## 事業遅延の理由

本事業は平成17年度に事業化し、平成19年度に工事着手した。当初、平成22年度の完成を目指していたが、用地取得に時間を要したことにより、事業完了が平成24年度になった。

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目.....!</p> <p>事業の整備効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地吹雪に起因する交通傷害の緩和 <ul style="list-style-type: none"> <li>・通行規制回数は8割減少するなど、地吹雪に起因する交通障害が緩和</li> </ul> </li> <li>②道路交通の安全性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・急カーブが解消され、地吹雪に起因する交通傷害が緩和することで、死傷事故が減少するなど、道路交通の安全性が向上</li> </ul> </li> <li>③救急搬送の安定性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送時間が短縮し、大きな迂回が回避できるなど、高次医療施設への救急搬送の迅速性及び安定性向上に寄与</li> </ul> </li> <li>④農産物の流通利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道内外へ出荷される生乳の速達性及び安定性向上による地域産業の振興に寄与</li> </ul> </li> <li>⑤観光の利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な観光地への利便性が向上するなど、道東の観光振興等に寄与</li> </ul> </li> </ul>
	<p>その他評価すべきと判断した項目.....!</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目.....!</p> <p>環境影響評価の対象外事業である。</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目.....!</p> <p>特になし</p>
	<p>事業評価監視委員会の意見.....!</p> <p>当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化.....!</p> <p>●人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：標茶町、厚岸町)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は、事業化当時約20.5千人(H17)→開通後17.5千人(H27)となっている。(国勢調査)</li> <li>・農業産出額は、事業化当時2,109億円(H12)→開通後2,970億円(H27)となっている。(農林水産統計年報)</li> <li>・漁獲高は、事業化当時58億円(H17)→開通後72億円(H27)となっている。(北海道水産現勢)</li> </ul>
	<p>今後の事後評価及び改善措置の必要性.....!</p> <p>阿歴内道路の整備により、地吹雪に起因する交通障害の緩和、農水産物の流通利便性の向上、道路交通の安全性向上など、当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。</p> <p>なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性.....!</p> <p>当該地区はエゾシカ衝突事故の多発地帯であり、有識者からの意見も踏まえて横断函渠をシカが横断できる構造に見直した結果、事業費・事業期間が増加している。</p> <p>今後も、周辺環境に配慮が必要な事業は、事前に有識者等の意見を把握するなど、早い段階から環境への配慮を考慮した道路構造を確定することが重要である。</p>
	<p>特記事項.....!</p> <p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。